（例1　（開削工法））

施工説明書

　管渠（内径５００㎜）埋設の工法は、下図に示すとおり開削によるものである。

山留工法としては、軽量鋼矢板（長さ３.０ｍ）を用いバイブロハンマーにて杭の打ち込み、引き抜きを行った。

　掘削は、バックホーを主に使用した。

　埋め戻しは、下記の管渠敷設後、全断面について砂埋め、締固めを行い、その後矢板材を慎重に抜いた。

　施工延長を２０ｍ毎に区切って施工し、逐次工事を進めた。

|  |
| --- |
|  |

　新宿区西新宿一、二丁目付近枝線工事

掘削断面図

　 №１

東京邸　　　　　　官民境界

　　　　　　　　　　　　　0.8ｍ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　3 .0ｍ

500mm

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　砂基礎・胴木基礎等

　　1.2ｍ

〈例〉

45°,55°,60°など

（Ａ４タテ）

（注）１　工事と調査物件との位置を明示する。

２　調査対象物件の図に、事後調査一覧表の整理番号及び物件所有者名を記載する。

３　外構（門・柵・塀）がある場合は、その位置も記載する。

４　調査対象物件の配置に沿った図にすること。（同じ図を使用し、数値等だけを変更

しないこと）

５　断面図には、影響線の掘削角を記入する。（例：４５°、５５°、６０°など）

　　　６　基礎のない場合の記載例

500mm